

乱用薬物の危険性 —覚せい剤、大麻、エクスタシー錠剤等—

元厚生労働省 関東信越厚生局麻薬取締部 主任鑑定官

牧野 由紀子

1. はじめに

日本では、薬物乱用問題は諸外国ほどには関心が持たれない比較的健全な状況にあります。しかし、海外での薬物事件で日本人に死刑判決、韓国芸能人の大麻使用、バス運転手や警察官の覚せい剤使用事件等、薬物問題が起こりその度に大きく報道され、薬物に対する警戒感の喪失が懸念されています。昨今の薬物乱用問題及び関連の化学情報について話題を提供いたします。

2. 薬物乱用

日本で長い間、大きな社会問題になっているのは覚せい剤で、過去数年の薬物事犯検挙状況をみると、覚せい剤事犯が8割、ついで大麻事犯、MDMAなどの合成麻薬事犯となっています。国際的には、大麻、コカイン、ヘロイン、アンフェタミン型薬物等多様な薬物が多国間にわたって流通しており、薬物乱用は各国共通の課題として関係国が連携して取締対策を強化していかなければならない状況にあります。

3. 覚せい剤及びドラッグプロファイリング

薬物対策では乱用者の摘発や薬物による病的症状の治療で需要を断つと同時に、密造原料規制や密輸・密売の取締まりにより供給を断つことが重要であります。覚せい剤を題材とし、治療、体内代謝、生体試料(尿や毛髪)分析、炭素・窒素・水素の安定同位体比分析を中心にした覚せい剤原料物質の起源について紹介します。

4. 大麻、アヘン系麻薬、コカイン、幻覚剤&エクスタシー錠剤について

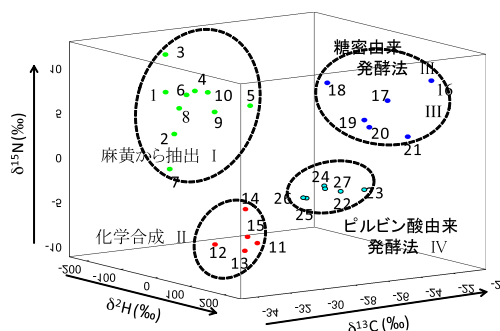
各薬物の押収品を写真で紹介し、各薬物の乱用の実態について概説します。

5. 向精神薬や指定薬物について

鎮静剤及び睡眠薬等の医薬品や規制薬物類似構造物質の乱用について概説します。

6. 参考資料

1. 現代化学 2010年2月号 p.26-33
2. N.Kurashima, Y.Makino, Y.Urano, K.Sanuki, Y.Ikehara, T.Nagano, *Forensic Sci. Int.* **189** (2009) 14-18.
3. Y.Makino, Y.Urana, T.Nagano, *Bull. Narcotics* **57** (2005) 63-78.
4. Y.Makino, *Biomed Chromatogr.* **26** (2012) 327-30



[すべての方の聴講歓迎](#)

3回生向け講義「生体情報学Ⅰ(脳と神経の生物学)」と連動したセミナーです。

世話人: 生体情報学Ⅰ分野 八田公平
khatta@sci.u-hyogo.ac.jp